

森さんを偲ぶ

ISHIGAKI, Kesakichi / イシガキ, ケサキチ / 石垣, 今朝吉

(出版者 / Publisher)

法政大学社会学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会労働研究 / Society and Labour

(巻 / Volume)

45

(号 / Number)

3

(開始ページ / Start Page)

3

(終了ページ / End Page)

7

(発行年 / Year)

1999-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00018906>

森さんを偲ぶ

石垣 今朝吉

一九八四年に法政大学は大きな転機を迎えていた。経済・社会両学部がそれまでの市ヶ谷キャンパスから新設の多摩キャンパスに移転することになったからばかりでなく、それに伴う教養部からの教員の移籍によって、両学部ともいわゆるタテ割り組織に編成替えとなったからでもあった。その移籍された一人に森さんがおられて、そこではじめて言葉を交わすことになったのである。

寡黙の森さんがみずから働きかけてくることはなかったろうから、恐らく私の方から話しかけていったと思うが、共通の話題といえば碁であったろうと推測される。こうして碁を介して親しく付き合うことになった。当初はお互いの研究室で打っていて、電話で“碁学研修”をやりますかといった調子で誘い合っていたが、数年を経て彼が住まいを千葉から多摩ニュータウンに移してからは、お互いの家を往来するようにもなった。もっとも、彼には子供さんがいなかったから、私の家の方が気楽でしょうという、彼の家へ出かける回数の方が多かったが。

夏休みを除けば、週一回か二回は打っていたはずだから、今まで何百回打ったであろうか、記録がない。棋力は同じ程度だったので、勝負は五分五分ぐらいだったと思う。彼は打っている途中で、必ずといってよいぐらい自戦解説をつける癖があった。こう打てばこうくるだろうから、こう打ってはいけないな、とかいうものだから、いつも大笑いしながら打ったものである。彼の家で打つときには奥さんの料理に舌鼓を打ちつつ酒を飲みながらの対局となった。

彼は酒をよく嗜んだが、決して酒で乱れることはなかった。その酒も独酌が最高といって、学部での付き合いはよい方ではなかった。彼は大学へはいつも自動車で出かけてきていたから、そのせいもあるが。いつだったか、自動車を車検でとられて利用できないときがあったが、丁度その日、市ヶ谷で教授会があり、「電車の切符の買い方が分からないので、買い方を女房に紙に書いてもらってきた」というほどの徹底した自動車族であった。

その奥さんを一九九六年九月、癌で亡くして文字通り独身になってからは、酒量はかなり増えたようであった。

森さんは碁だけでなく、釣——特に鮎の友釣り——が好きで、栃木や群馬の山奥まで出かけたといっていた。晩年近くには漢詩や俳句をつくり、よく学部資料室に掲げていたものである。短冊に書いて彼からいただいた一句、

橘中に四人の友の手談かな 楽水

は私の部屋に飾ってある。

すぐれた研究者だけでなく、風流人でもあった。あつという間の彼の死は後に深い余韻を残したままである。

故森實教授 略年譜・主要業績

略年譜

- 一九三六年七月十三日 富山県富山市に生まれる
- 一九五五年三月 富山県立富山高等学校卒業
- 一九五九年三月 法政大学法学部法律学科卒業
- 一九六一年三月 法政大学大学院社会科学研究所私法学専攻修士課程卒業
- 一九六四年三月 法政大学大学院社会科学研究所私法学専攻博士課程修了
- 一九六一年四月 法政大学法学部助手
- 一九六五年四月 法政大学第二教養部専任講師
- 一九六八年四月 法政大学助教授
- 一九七四年四月 法政大学教授
- 一九八二年四月 法政大学社会学部へ移籍
- 一九六六年四月 神奈川県農政部における入会林野等整備コンサルタント
- 一九九二年三月 「水の法と社会」により法政大学法学博士号を取得

主要業績

- 「法人と組合の中間体たる権利能力なき社団」(紹介)『法学志林』第五九卷二号 一九六二年一月
- 「人格なき社団は賃借権の主体たりうるか」(判例研究)『法学志林』第五九卷三・四号 一九六二年三月
- 「判例よりみたるいわゆる内縁の成立と習俗的儀式」(論文)『法学志林』第六〇卷一号 一九六二年九月
- 「漁業協同組合長の為した総会当日に於ける総会開会取止め措置の効力」(判例研究)『法学志林』第六〇卷二号 一九六三年二月
- 「人格なき社団の債務の責任」(判例研究)『法学志林』第六二卷一号 一九六四年九月
- 「わが国漁業制度における慣習から権利への過程」(論文)『法学志林』第六二卷二号 一九六四年十二月
- 「入会権の実体(共同)」(論文)『社会科学研究』第一七卷三号 一九六五年
- 「第一種共同漁業権の共有とその行使方法」(論文)『法学志林』第六三卷一・三号 一九六六年
- 「入会権関係主要参考文献目録(共同)」(文献目録)『法政大学教養部紀要』第一二号 一九六六年
- 「『分け地』と入会権」(判例研究)『法学志林』第六三卷三号 一九六六年
- 「戸主会の記録」(論文)『法社会学年報』一九六六年
- 「財産区の形成と入会権」(論文)『法学志林』第六五卷一号 一九六七年
- 「債権者取消権行使の効果」(論文)『法政大学教養部研究報告』一〇号 一九六七年
- 福島正夫編「家制度の研究 資料篇三(共同)」東京大学出版会 一九六七年
- 「農漁村の法的諸問題」(著書) 法律文化社 一九七三年
- 「現代日本の法(共著)」(著書) 法律文化社 一九七四年一月

- 「日本の現代法（編著）」（著書） 法律文化社 一九八三年四月
- 「ドイツの団体法論——団体法論覚書き」（論文）『法学志林』第七三卷二号 一九七六年三月
- 「戸主の居所指定権——戸主権消滅の一考察」（論文） 薬師寺博士米寿記念『民事法学の諸問題』 一九七七年十月
- 「昭五三〇五九年度 水利調整機構調査報告書」（論文） 日本農業土木総合研究所 一九七九〇八四年
- 「農業水利合理化に関する法制上の問題——農業水利権の譲渡」（論文）『農業水利合理化に関する調査報告書』水利科学研究所 一九八二年三月
- 「慣行水利権『合理化』に関する法的問題の一斑」（論文）『農業水利合理化に関する調査報告書』水利科学研究所 一九八三年三月
- 「地域用水と水利権」（論文）『農業水利合理化に関する調査報告書』水利科学研究所 一九八四年三月
- 「事実たる慣習と慣習法」（論文）内山・黒木・石川還暦記念『現代民法学の基本問題 上』 一九八三年七月
- 「戦前家族法判例の一斑」（論文） 福島正夫編『家族——政策と法』第六卷 一九八四年五月